

# 大学教育の総合評価

## その3 卒業生による学生生活の評価<sup>(1)</sup>

土 屋 静 子  
原 一 雄

### 1. は し が き

現在、我国の大学はまさに混乱のさ中にある。社会の流れとともに大学のあり方も変容を迫られ、そこで絶えず現代社会における大学の役割が検討され、学生の抱く大学に対する欲求と不満を科学的に調査分析し、それらをもとにして具態的な将来の教育方針が打ち出されなければならない。すなわち今もっとも必要とされている事柄は、このような大学教育の総合的多面的な教育評価であり、これは今後の大学運営には必須のものであると考えられる。

それにもかかわらず、我国の大学における教育評価の現状はまことに寒心にたえない。わずかに厚生補導の立場から、学生の性格テスト、適応調査などが個々の大学で行なわれているに過ぎず、それらも現在の段階では、性格異常者、不適応学生の早期発見と指導にとどまっている。そのほか、教育心理学の立場から、各種の調査研究も行なわれているが、大学自体の組織の下に計画的に行なわれているものはほとんどない。全学的なものとしては、単に入学試験の予測性の研究が少数の大学で行なわれている程度であろう。

国際基督教大学（以下ICUと略す）は、戦後キリスト教と国際主義を基盤とする教育と研究の場として設立され、「神と人ともに奉仕する人間の育成」という目標のもとに、その教育活動を行なってきた。そこでは、新制大学の

---

(1) 本研究は、土屋静子修士論文「大学教育の教育評価に関する一考察」に収録された調査研究の一部を抜粋し、加筆したものである。

特色である人格教育に主眼をおき、その制度も他の大学には見られぬ独特のものを数多く有している。たとえば教養学部一学部制、小人数制、アドバイザー制、日英両語、学寮、構内の教授宅、開架式図書館その他の施設など、日本の他大学と比べて極めて特徴ある制度や設備は、この大学の目標実現のためにとられてきた手段であるといえよう。しかしながら、新しい試みとして我国の教育界から注目を集めていた ICU の教育体制も、相次ぐ学園紛争により、そこに多くの問題の内在することが指摘される結果となった。

ところでこのような ICU の教育体制は、アメリカに幾多の類似の例があるとはいえ、我国ではまったく新しい試みであった。それにもかかわらず、創立時にかかげられた理念実現のための制度、教育環境その他すべての教育活動が、果して期待通りの成果をあげているかどうかについて、学内からの評価はむしろないがしろにされてきたと言っても過言ではなかろう。個々の教師によって、それぞれの立場から得てして主観的且つ独善的な評価が行なわれてはいたが、教育活動と並行して組織的に調査、研究、評価を行なっていく機関は存在しなかった。まして ICU をとりまく社会の変化に伴って、ICU の位置、役割が具体的にどう変わるか、社会からどう評価されているか、また大学内においては、それぞれ教育目的をもつ個々の教育活動が十分効果をあげているかどうかなどということについて、客観的資料を求め、それらを検討することによって教育指導計画の改善を行なう、という態度は皆無であったように思われる。(2)

もちろん、その様な大学の教育活動を常に評価検討する試みが行なわれていようといまいとにかかわらず、ICU の学園紛争は避けられなかったかもしれない。しかしながら、大学が自らの姿を客観的に把握し、敏感に将来を予測することができたならば、問題の深刻化を早めに防ぐことはできたかもしれない。

---

(2) Dr. M. E. Troyer その他による「大学生の価値観研究」は、間接的ながらこの問題に触れようとした唯一の試みであった。

## 2. 研究の目的

大学教育の成果を効果的に測定評価するためには、大学教育の全般にわたって、あらゆる角度から測定評価することが必要である。(1) その一つの方法として、学生の立場から大学教育の効果を測定する場合、一番身近な学生生活そのものを、学生がいかに評価しているかを測定することが最も有効な方法と考えられる。この課題につき、在学中の学生を対象とした研究(2)は学生生活の評価の中に、種々の要因が力動的に働くことを指摘している。本研究では、更にこの問題を歴史的な角度から吟味する為、被調査群を卒業生に求めた。すなわち、創立以来の ICU の教育体制が、理念達成のための方法として成果をあげていたかどうかを、卒業生の在学中の印象による評価を通して吟味するのが本研究の目的である。そのため、卒業生が学生生活を構成する諸側面に、それぞれどの程度の価値を認めていたかどうか、又、それらの諸側面の実情にどの程度満足感を得ていたかどうかの二面から、彼らの学生生活の評価をとらえることができるであろう。又、両者間のずれを測定することにより、欲求不満の指数とすることができよう。

したがってこの研究では、具体的には次の事項を調査目標として行なうものである。

- I 卒業生全体の大学生活に対する評価の傾向を、「大切さ」、「満足度」、両者のずれの三側面から把握する。
- II 卒業生の大学生活に対する評価の変遷を次の観点より検討する。
  - a. 大切さについて
    1. どの時代においても共通して大切とみなされている大学生活の側面は何か。又、大切さを認められていない側面は何か。
    2. 創立以来、時代とともに大切さの程度に変化のみられる側面は何か。
  - b. 満足度について

1. どの時代にも共通して満足な状態にあるとみなされている大学生生活の側面は何か。又、不満足な側面は何か。
  2. 創立以来、時代とともに満足さの度合に変化のみられる側面は何か。
- c. 大切さと満足度のずれについて
1. どの時代においても共通して二者にずれのみられる側面は何か。そのずれがみられない側面は何か。
  2. 時代とともにずれの度合に変化のある側面は何か。

### 3. 研究の方法

#### A. 被調査者と調査時期

ICU 日本人卒業生133名からの回答を原資料とした。1968年10月20日より同年11月20日までの期間に、質問紙(後述)の配布および回収を行なった。この時の質問紙総配布数は303であり、全体の回収率は40.0%であった。ただし当時同大学に関係していた卒業生には全員に配布した。したがって配布数および回収率の内訳は次の通りである。

- 1) 1968年10月現在 ICU 関係者(教職員, 学内居住者)  
配布数50 回収数37(回収率74.0%)
- 2) その他一般卒業生数  
配布数253 回収数96(回収率37.9%)

#### B. 質問紙

1967年10月に岩瀬と久留(3, 4)が作成した学生生活に関する態度調査表を使用した。質問項目は学生生活に関する121項目からなり、それらは8領域に分類されている。各領域の項目数と内容は次の通りである。

- 第1領域(11項目) 第2~8領域を抽象的に表現する項目  
第2領域(30項目) 教科活動

第3領域(22項目) 課外活動

第4領域(12項目) 行事

第5領域(11項目) 制度・特色

第6領域(13項目) 設備・施設

第7領域(6項目) 環境

第8領域(16項目) 日常生活

岩瀬等の在学生を対象とする調査の場合は、上記各項目について「大切さ」と「満足度」を、リッカート法により、+2, +1, 0, -1, -2, の五段階の尺度上に回答を求めている。本研究では、同じ評定尺度を用い、被調査者に在学中および現在の二時期における印象について回答を求めた。すなわち、大切さについては在学中の大切さの程度と現在感じている程度、満足度については在学中の満足さの程度についての評定を求めた。更に、現在ICUに関係のある者については、現在のICUについての満足度の評定も求めた。したがって、現在ICUに関係のない被調査者99名からは3通り、現在ICUに関係のある被調査者からは4通りの回答を得た。但し本研究の対象として分析を行なうのは、在学中の大切さ、満足度である。個人的資料としては、期、性、専攻学科、職業について問い、記名は自由とした。

## C. 整理方法

### 1. 「大切さ」, 「満足度」の得点化と「欲求不満度」の算出

質問項目への回答+2を5点, +1を4点, 0を3点, -1を2点, -2を1点と換算した。標本総数にくらべて無回答率が小さかったので無回答の項目は3点と換算した。さらに「大切さ」と「満足度」のずれを測定するために、「大切さ」と「満足度」の差を算出し、「(欲求)不満度」とした。よって「大切さ」と「満足度」が等しい場合は、「不満度」は0であり、「大切さ」に比して「満足度」が低い場合には正の値, 又, 「大切さ」に比して「満足

度」が高い場合は負の値で表わされる。

## 2. 被調査者のグループ分類

ICU 創立以来の学生の態度の変遷を調べるために、被調査者を期別（入学年度別）によって4グループに分類した。

グループ1：1, 2, 3期生（1953, 1954, 1955年入学者）

グループ2：4, 5, 6期生（1956, 1957, 1958年入学者）

グループ3：7, 8, 9期生（1959, 1960, 1961年入学者）

グループ4：10, 11, 12期生（1962, 1963, 1964年入学者）

## 3. 得点分布, 平均値, 分散の算出と有意差検定

被調査者全員および各グループについて、「大切さ」、「満足度」、「不満度」の得点分布, 平均値, 分散を項目, 領域別に算出した。次に各グループ間の比較を, 「大切さ」、「満足度」、「不満度」について項目別に行なった。質問紙は8領域に分類されているが, 領域を構成する項目群についての妥当性が不明であるので, 本研究では領域については平均値の算出にとどめた。有意差検定は, 各項目につきグループの平均値の比較をt検定によって行なうと同時に, 得点分布についてのカイ自乗検定も行なって, 評定尺度の吟味がなされていない点を補った。

## 4. 結果と考察

### A. 被調査者と質問紙

被調査者の期, 性, 専攻科目, 職業, 調査時におけるICU関係の有無について, グループ別内訳は, 表1の通りである。

この研究においては, 被調査者が第1期卒業生から第12期卒業生にまで各期にわたり, かつ男女比もほぼ同じであるところから, 比較的バランスのとれたサンプルが得られたと思われる。

しかしその反面, 次の点で偏りの可能性があることは指摘されなければな

表1 被調査者の内訳

グループ	期		性		専攻		職業		ICU関係	
1	1	10	男	16	自	1	教育・学術関係	13	有	9
					人	12		官吏・会社員		
					社	13	家庭			
	2	9	女	15	語	5	大学院生	0	無	22
					教	0				
	2	4	13	男	15	自	4	教育・学術関係	14	有
人						11	官吏・会社員		11	
社						13		家庭	7	
5		11	女	17	語	4	大学院生	0	無	25
					教	0				
3		7	8	男	23	自	6	教育・学術関係	9	有
	人					4	官吏・会社員		17	
	社					23		家庭	11	
	8	21	女	17	語	3	大学院生	3	無	32
					教	4				
	4	10	13	男	15	自	3	教育・学術関係	7	有
人						3	官吏・会社員		10	
社						17		家庭	3	
11		8	女	15	語	3	大学院生	10	無	17
					教	4				
全		1~3	31	男	69	自	14	教育・学術関係	43	有
	4~6	32	人			30	官吏・会社員		48	
	7~9	40	女	64	社	66		家庭	29	無
					語	15	大学院生		13	
	10~12	30	教	8						

らない。

- 1) 調査時に ICU に関係している卒業生は全員を調査対象としたため、全被調査者 133 名中 37 名 (27.8%) が ICU 関係者で占められた。
- 2) 調査者自身が卒業生であるため、個人的関係によって回収率が高まったと考えられるグループ (グループ 3) が存在する。
- 3) 質問紙に回答をよせるということが、すでに卒業生の中では ICU への関心が強い者であることを意味している。

本研究に使用した質問紙は、前述のごとく、岩瀬、星野が1967年当時の在学学生を対象として作成した質問項目から構成されているが、項目の意味が抽象的で、質問の意図がつかみにくいものや、意味が多義的で回答しにくいものがあること、また、「大切さ」、「満足度」の尺度では評価しにくい項目があることなどが回答者より批判されている。本研究では、ICU での大学生活を、在学中の印象によって評価することを回答者に要求したが、学生生活に関する総項目について記憶をたどって評価する操作は、正確に在学中の態度を表現するとはいえないし、在学中の期間にも態度の変化があり得るので、それらのどこに焦点があてられたかは個人によって異なることが考えられる。また、グループによって卒業後の年数が異なるため、それが評価結果に影響を与える可能性もあると思われる。また、質問項目が1967年時における学生生活構成要素であるので、初期の卒業生にとっては、在学中に存在しなかった項目 (例えば項目 110, 202, 222, 306, 310 など) もある。以上のことが結果の信頼度に多少とも影響を与えていることが考えられる。これらの点をいかに改善していくかは今後の課題である。

## B. 卒業生全体の学生生活に対する評価の一般的傾向

卒業生全員の「大切さ」、「満足度」、「不満度」の項目別平均値は図 1 に示されている通りである。「不満度」は「大切さ」と「満足度」のずれを表わしており、両者間の距離で大体の見当がつくが、3者の関係が比較しやすい様に、改めて同じグラフ上にのせてみた。

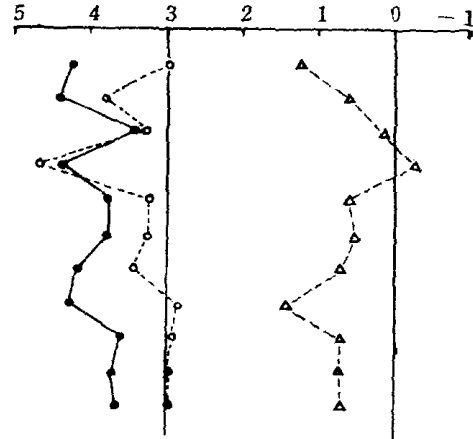


図1 卒業生全員の項目別平均値

●— 大切さ    ○— 満足度    △— 不満度

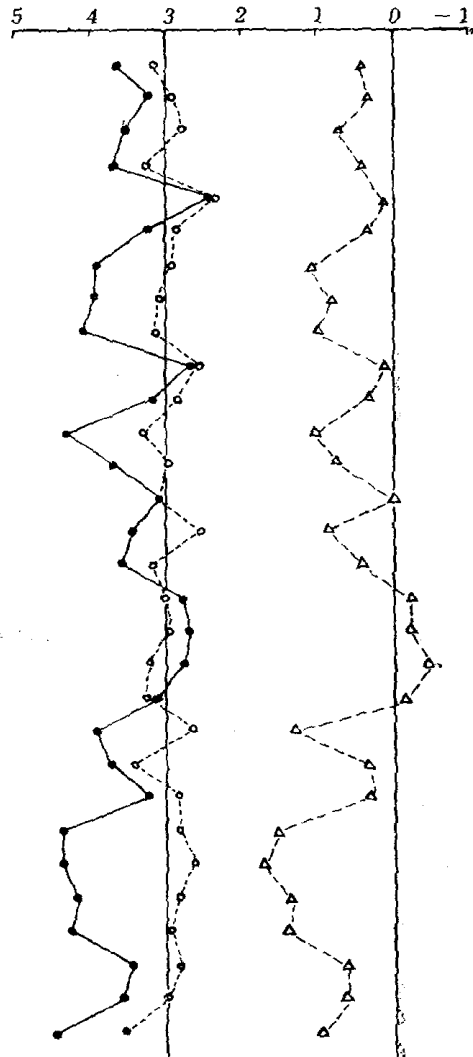
第1領域 全体的評価

- 001 学問研究の場としてのICU
- 002 人格形成の場としてのICU
- 003 大学行事への参加
- 004 自然環境
- 005 ICUの国際性
- 006 ICUの基督教主義
- 007 ICU 学生生活の充実さ
- 008 学問水準
- 009 課外活動の充実性
- 010 設備・施設の充実性
- 011 文化的環境



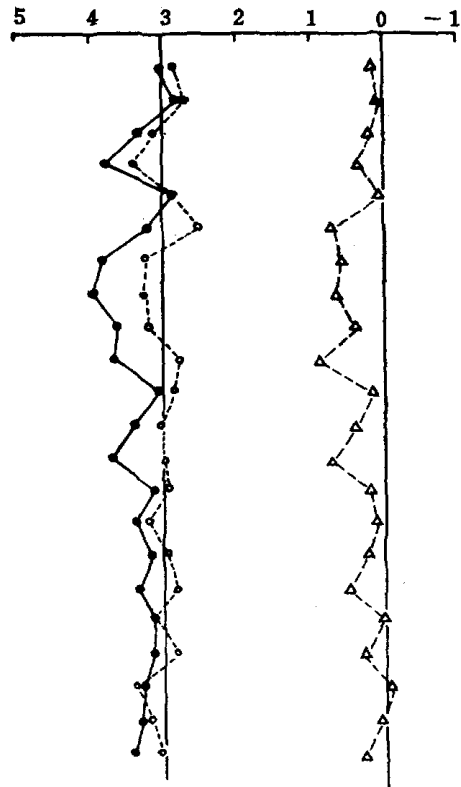
第2領域 教科活動

- 101 一年生英語教育
- 102 自然科学科の一般教育
- 103 社会科学科の一般教育
- 104 人文科学科の一般教育
- 105 体育……理論
- 106 体育……実技
- 107 専門コース
- 108 基礎科目
- 109 選択科目
- 110 価値観研究
- 111 話 法
- 112 卒 論
- 113 第二外国語
- 114 教職課程
- 115 専門職への準備
- 116 日英用語の重視
- 117 3学期制
- 118 B平均制
- 119 クラスの出欠が自由
- 120 教養学部一学部制
- 121 コース新設に学生の意見を反映
- 122 入試方法
- 123 外国人の受け入れ体制
- 124 講義内容
- 125 教授陣容
- 126 教授の教授方法
- 127 教授の研究心
- 128 教授の社会的活動
- 129 成績評価の仕方
- 130 教授の人格・人柄



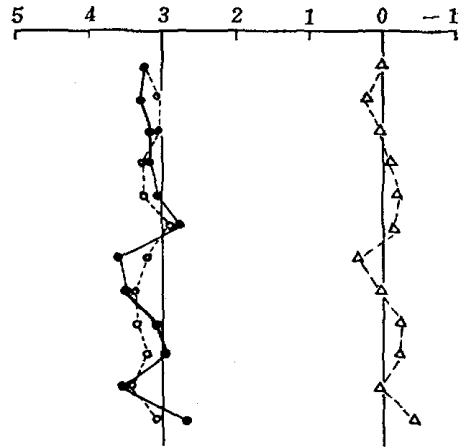
第3領域 課外活動

- 201 大学の広報活動
- 202 同研究会活動
- 203 宗教活動(礼拝)
- 204 コンボケーション
- 205 カウンセリング, 学生相談
- 206 就職指導
- 207 アドバイザー制度
- 208 経済援助制度
- 209 オリエンテーション
- 210 学生の自治組織・活動
- 211 新聞会
- 212 スポーツ・クラブ
- 213 研究サークル
- 214 美術系クラブ
- 215 音楽系クラブ
- 216 演劇系クラブ
- 217 思想・科学研究系クラブ
- 218 宗教関係奉仕グループ
- 219 SFC 制度
- 220 入学式
- 221 オリエンテーション・キャンプ
- 222 IBS 制度



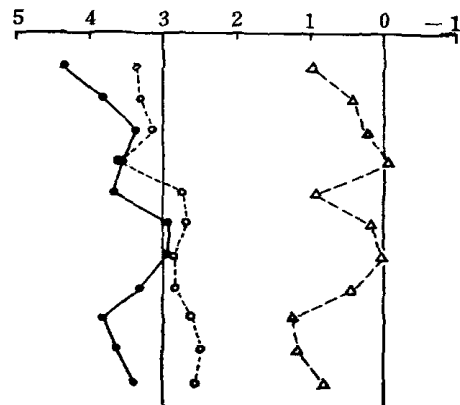
第4領域 行事

- 301 寮 祭
- 302 宗教強調週間
- 303 構内清掃日
- 304 修養会
- 305 夏期キャンプ
- 306 友達プログラム
- 307 ICU 祭
- 308 クリスマス行事
- 309 スキー・キャンプ
- 310 マラソン大会
- 311 卒業式
- 312 舞 踏 会



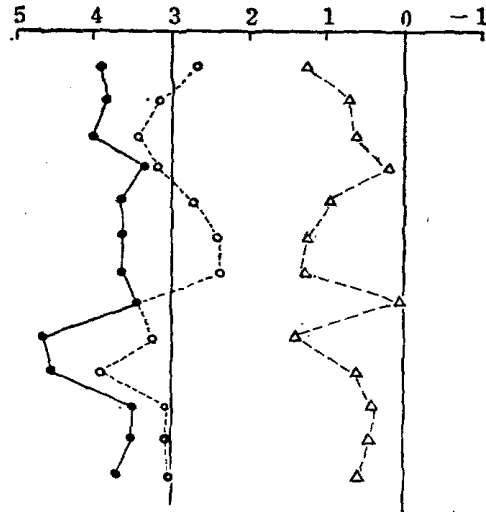
第5領域 制度・特色

- 401 ICU の理念
- 402 教養学部4年制
- 403 学生の構成: 性・宗教・国籍
- 404 1年生のセクション制度
- 405 全寮制
- 406 寮アドバイザー制度
- 407 寮母制度
- 408 ICU ファミリー
- 409 学生の社会的関心
- 410 大学の経営方針
- 411 教授会の運営, あり方



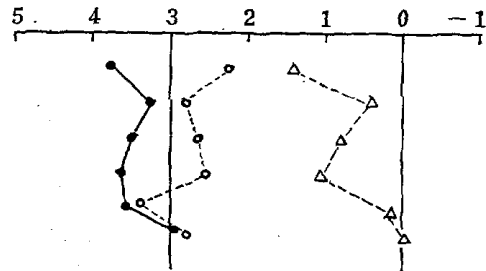
第6領域 設備・施設

- 501 食堂
- 502 クリニック
- 503 語学教育設備
- 504 視聴覚教育センター
- 505 実験設備
- 506 グラウンド
- 507 体育機具・施設
- 508 大学礼拝堂
- 509 図書館の設備
- 510 図書館の利用方法
- 511 社交の場
- 512 売店, 床屋, 靴屋, etc.
- 513 寮の設備・運用



第7領域 環境

- 601 他大学との学問的交流
- 602 スポーツ競技などの交流
- 603 文化面における交流
- 604 諸外国との交流
- 605 地理的条件
- 606 娯楽施設



第8領域 日常生活

- 70 勉学の場
- 702 健康の場
- 70 人間的接触の場 友人
- 704 " 教師
- 705 " 親・兄弟
- 706 " 先輩
- 707 " 後輩
- 708 " 異性
- 709 余暇の利用
- 71 授業料
- 711 寮費下宿代
- 712 食費
- 713 書籍費
- 714 遊興交際費
- 715 アルバイト
- 716 スカラシップ

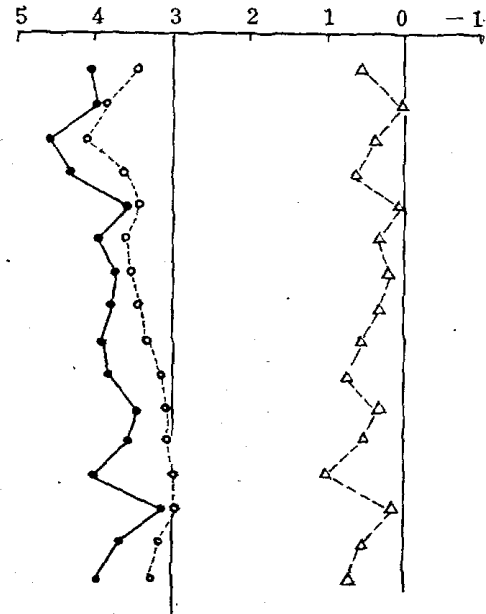


図1に示された卒業生被調査者全員の一般的傾向としては、「大切さ」については、その様相に高低の差はあっても、学生生活全般はだいたい大切であるとみなされている。しかし、「満足度」については、全体的に満足な状態ではないとみなされている。従って、「不満度」についても、期待が充足されていないという傾向がみられる。3者のパターンを比べてみると、「大切さ」についてはかなりの起伏がみられるが、「満足度」は比較的安定しており、従って「不満度」のパターンは主に「大切さ」の度合によって決定されている。

次に、「大切さ」、「満足度」、「不満度」それぞれについて、比較的評点の高い項目と低い項目をあげてみる。

### 1) 大切さ

#### a. 他の項目に比較して特に「大切さ」が高い項目（平均値4.00以上）

001 学問研究の場としての ICU	127 教授の研究心
002 人格形成の場としての ICU	130 教授の人格・人柄
004 自然環境	401 ICU の理念
007 ICU 学生生活の充実度	509 図書館の設備
008 学問水準	510 図書館の利用方法
109 選択科目	703 大学における人間的接触—友人
112 卒業論文	人
124 講義内容	704 大学における人間的接触—教師
125 教授陣容	師
126 教授の教授方法	

項目内容の傾向としては、ICU の理念と学問研究に関する側面、及び人間的接触の側面が ICU の大学生活で特に大切さを感じられているように伺える。

#### b. 他の項目に比較して「大切さ」の低い項目（平均値3.00以下）

105 体育理論	110 価値観研究
----------	-----------

114 教職課程	306 友達プログラム
117 三学期制	310 マラソン大会
118 B一平均制	312 舞踏会
119 クラスの出欠に関して基本的 ルールがないこと	406 寮アドバイザー制度
202 同窓会活動	407 寮母制度
205 カウンセリング・学生相談	606 娯楽施設

## 2) 満足度

### a. 他の項目に比較して満足度が高い項目（平均値3.50以上）

002 人間形成の場	703 大学における人間的接触—友人
004 自然環境	704 同—教師
404 1年生セクション制度	706 同—先輩
510 図書館の利用法	707 同—後輩
702 健康の面から現在生活している場	

「自然環境」及び「図書館の利用法」以外は主に大学における人間関係の側面に関する項目である。

### b. 他の項目に比較して満足度の低い項目（平均値2.60以下）

105 体育理論	506 グラウンド
110 価値観研究	507 体育機具・施設
115 専門職への準備	601 学問的分野における他大学との交流
206 就職指導	604 諸外国（外国の大学）との交流
410 大学の経営方針	
411 教授会の運営，あり方	

## 3) 不満度

### • a. 他の項目に比較して不満度が高い項目（平均値1.00以上）

001 学問研究の場としての ICU	409 学生の社会的関心
005 学問水準	410 大学の経営方針
007 専門コース	501 食堂
121 コース新設についての学生の 意見の反映	506 グラウンド
124 講義内容	507 体育機具
125 教授陣容	509 図書館の設備
126 教授方法	601 学問的分野における他大学と の交流
127 教授の研究心	713 書籍費

欲求不満度が高いということは、大切さに比して満足の度合が低く、二者間にギャップがあることをあらわすが、これらの項目内容の傾向は、主に ICU の学問的側面、大学の運営に対する学生の参加、外部との交流、体育施設に関する項目に分類できよう。

b. 他の項目に比較して欲求不満度が低い項目（平均値0.00以下）

004 自然環境	303 構内清掃日
114 教職課程	304 修養会
118 B平均制度	305 夏期キャンプ
119 クラスの出欠に関して基本的 ルールがないこと	306 友達プログラム
120 教養学部一学部制	309 スキーキャンプ
220 入学式	310 マラソン大会
301 寮祭	312 舞踏会
	404 一年生のセクション制度

不満度が低いことは大切さと満足度のずれが小さいことをあらわしているが、これらの項目のなかで、大切さが比較的高くしかもそれが満たされているのは「自然環境」「一年生のセクション制度」であり、他の項目は大切さの度合が低いために満足度とのずれが小さいものである。

### C. 卒業生の学生生活に対する評価の変遷

図2は卒業期により分けられた4グループについて、「大切さ」と「満足度」の時代的变化を示している。

4グループ間の平均値に何らかの有意な差がみられるのは、「大切さ」においては、61項目で、全項目数の約50%にあたり、「満足度」では37項目で約40%、「不満度」では33項目で約27%にあたる。<sup>(3)</sup>

ここでは、大切さ、満足度、欲求不満度それぞれについて、卒業生のグループ別平均値のグラフ上に現われたパターンから項目を次の様に分類し、全体的な傾向を把握してみたい。

- 1) 時代による変化があまりみられない傾向にある項目。
- 2) 時代とともに増加の傾向にある項目。
- 3) 時代とともに減少の傾向にある項目。
- 4) その他。

#### 1. 大切さ

##### 1) 大切さが不変の傾向にある項目

ここでは大切さの程度が他の項目に比較して高いものと低いもののみに着目する。

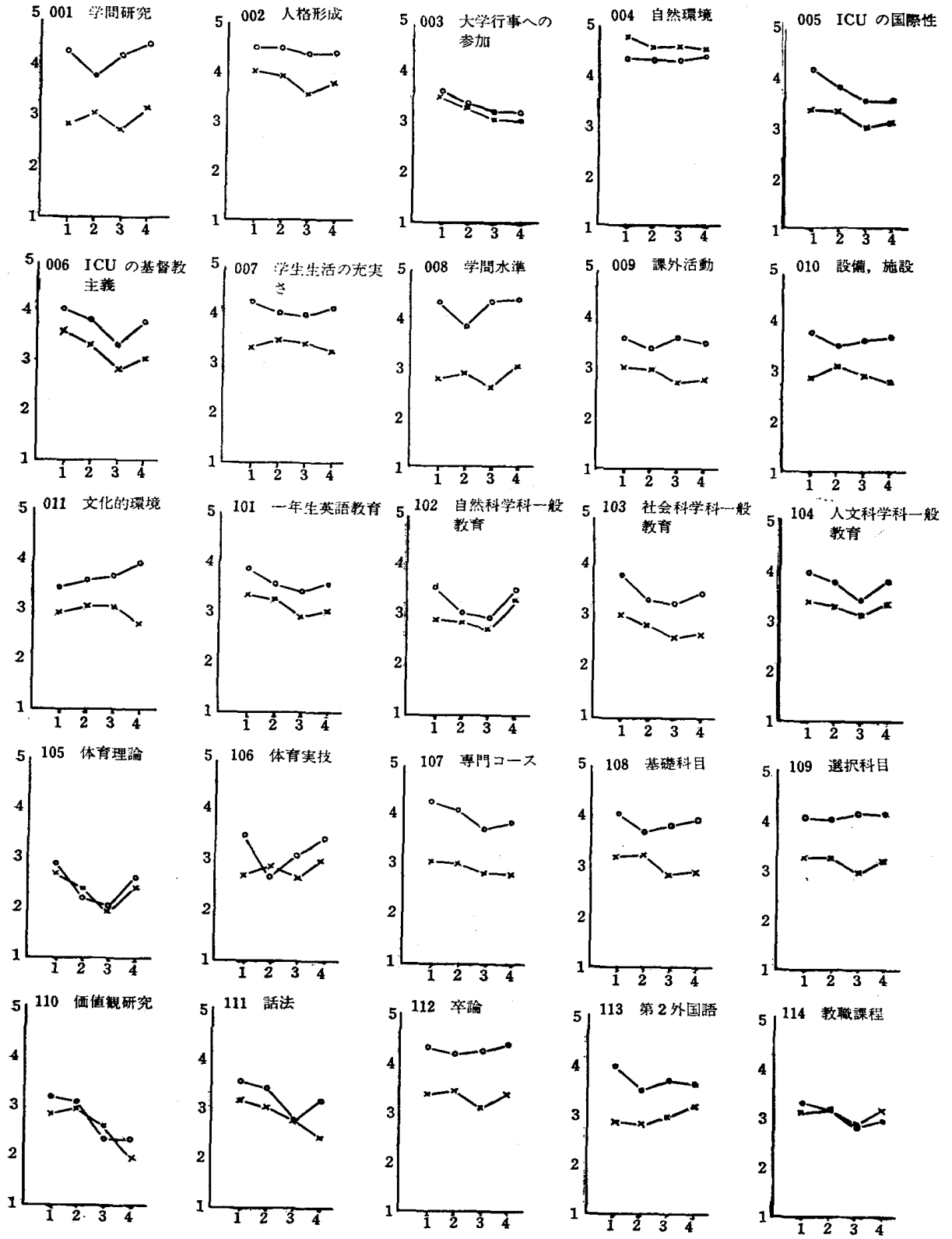
##### a. どの時代にも非常に大切であるとされている項目。

この分類に含まれる項目は卒業生全体の傾向の所で挙げられたものとほとんど一致している。(前節B1a参照) すなわち、主に学問研究に関する側面と人間的接触に関する側面である。又、CUの理念も全時代を通じて大切であるとみなされている。

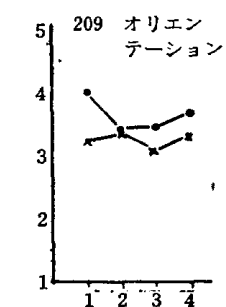
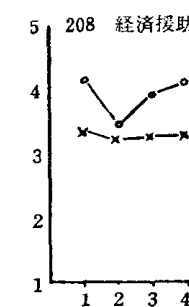
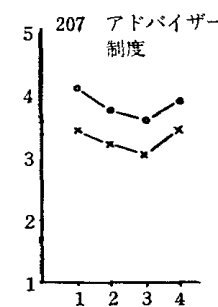
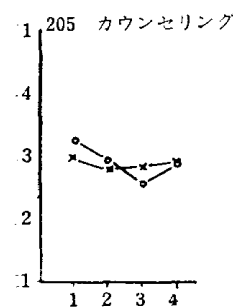
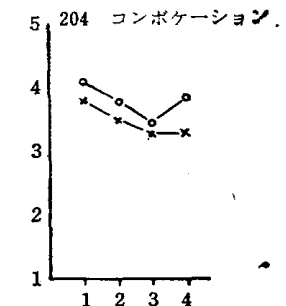
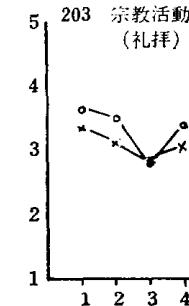
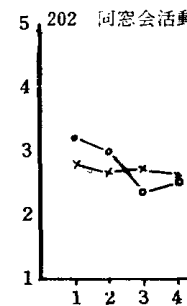
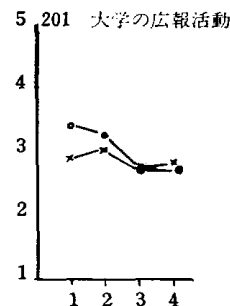
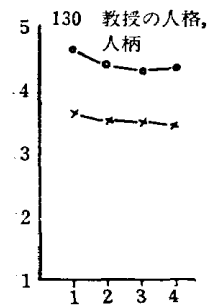
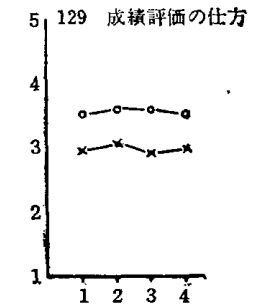
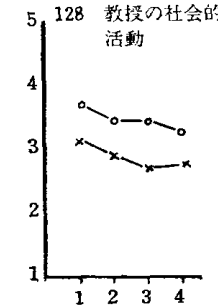
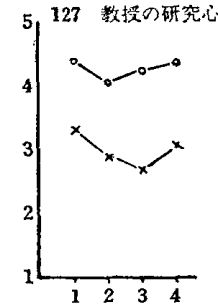
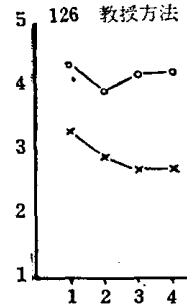
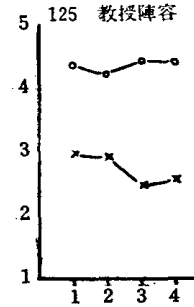
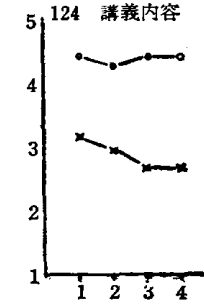
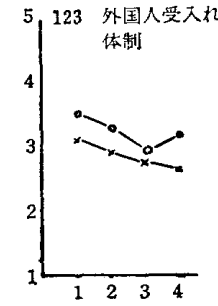
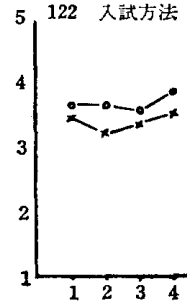
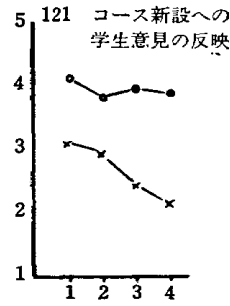
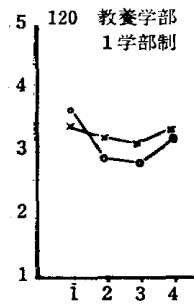
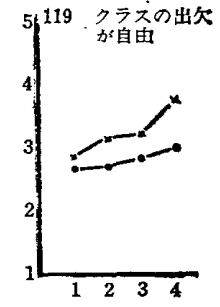
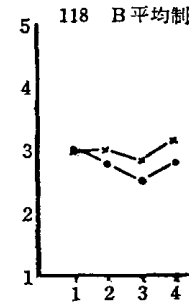
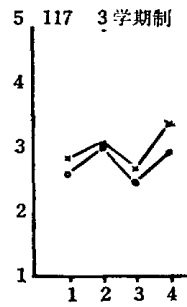
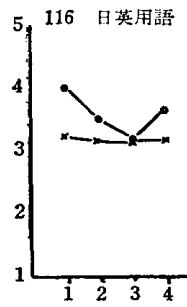
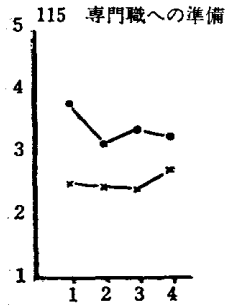
---

(3) 本論文では統計的検定を省略したが、考察にとりあげた項目は、すべて平均値の差が危険率5%以下で有意なものである。詳細な統計資料は土屋(5)を参照されたい。

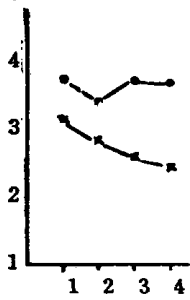
図2 卒業期による4グループ間の各項目における「大切さ」と「満足度」の平均値の比較



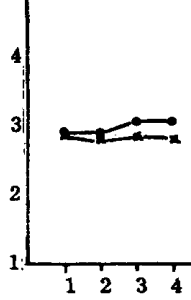




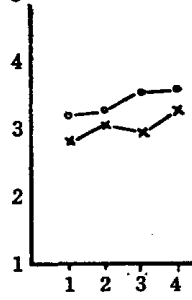
5 201 自治



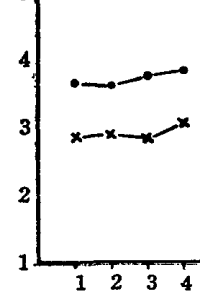
5 211 新聞会



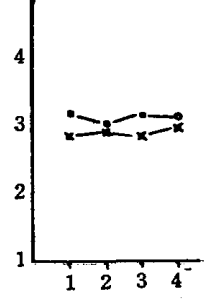
5 212 スポーツクラブ



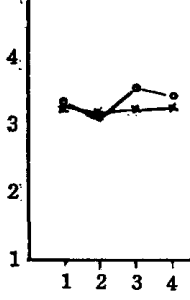
5 213 研究サークル



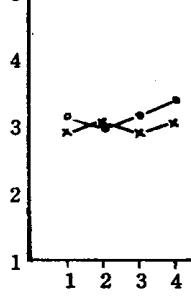
5 214 美術系クラブ



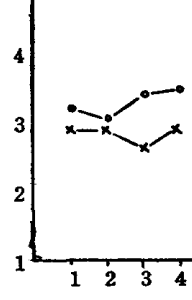
5 215 音楽系クラブ



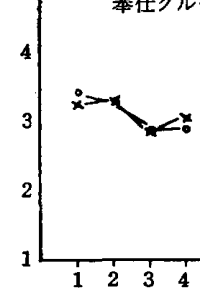
5 216 演劇系クラブ



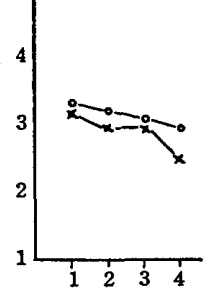
5 217 思想科学クラブ



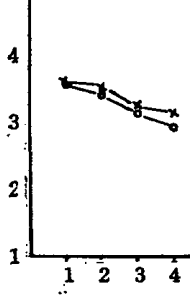
5 218 宗教関係奉仕グループ



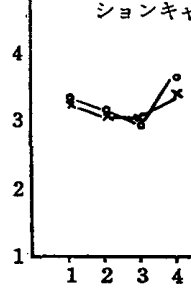
5 219 SFC



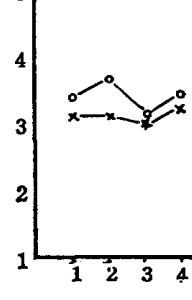
5 220 入学式



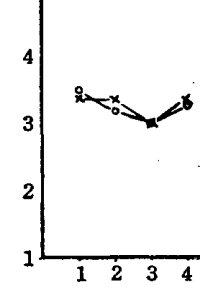
5 221 オリエンテーションキャンプ



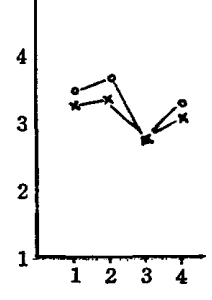
5 222 IBS



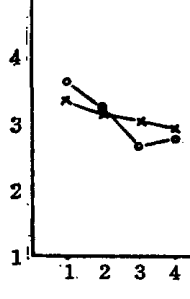
5 301 寮祭



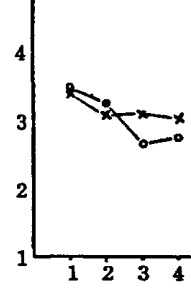
5 302 宗教強調週間



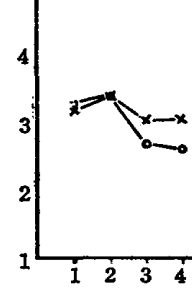
5 303 構内清掃日



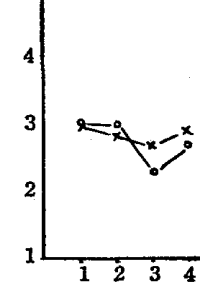
5 304 修養会



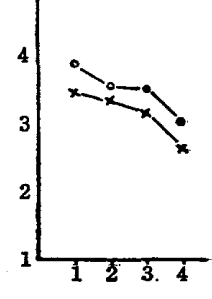
5 305 夏期キャンプ



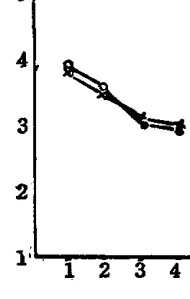
5 306 友達プログラム



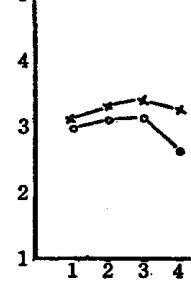
5 307 ICU祭



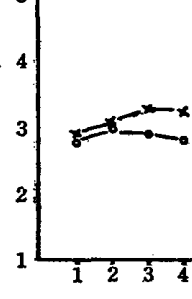
5 308 クリスマス行事



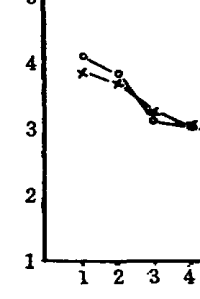
5 309 スキーキャンプ



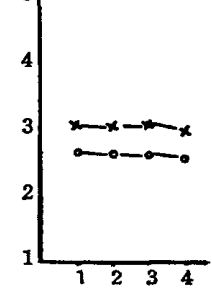
5 310 マラソン大会

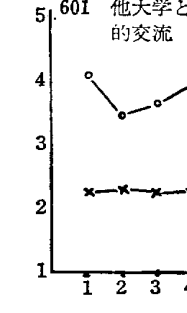
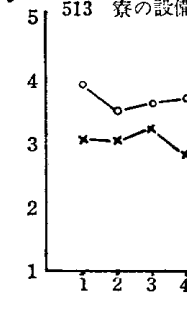
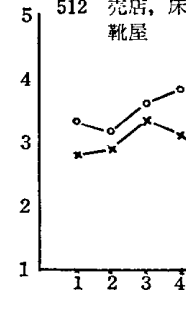
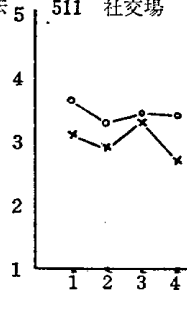
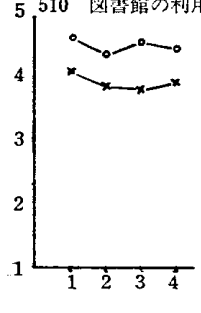
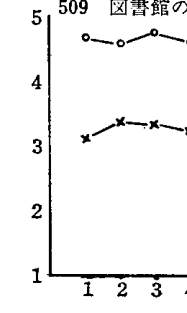
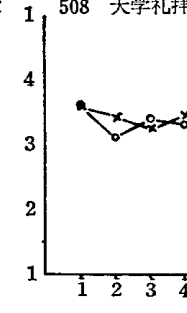
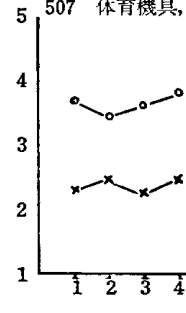
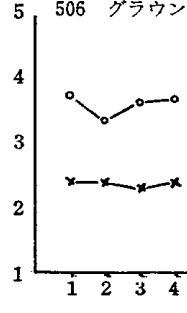
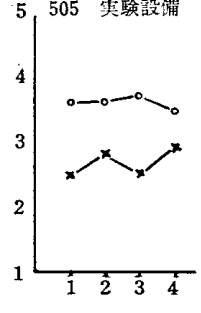
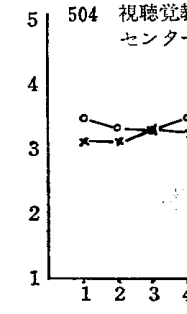
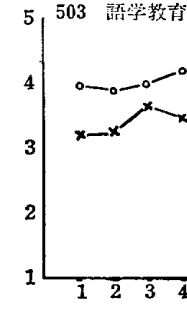
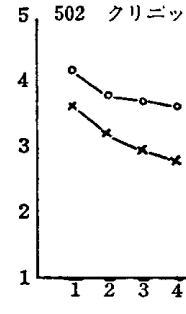
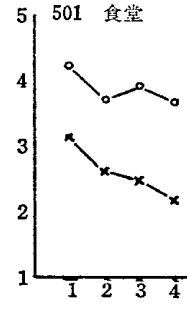
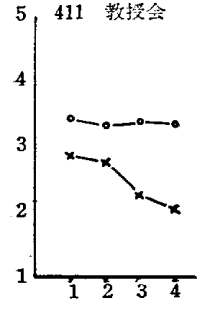
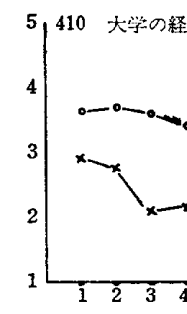
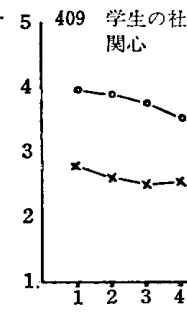
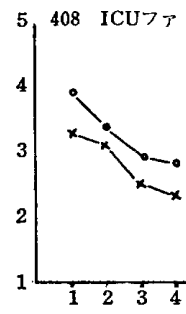
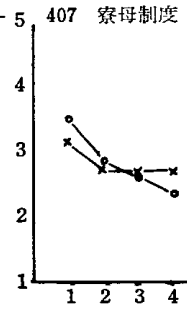
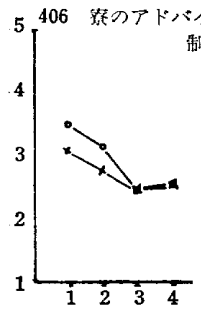
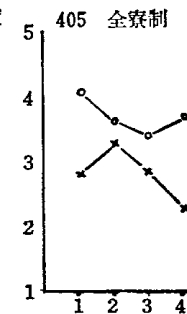
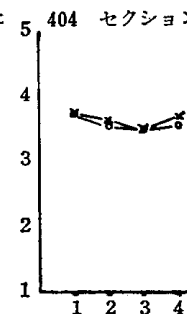
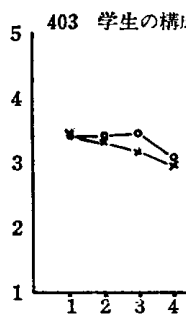
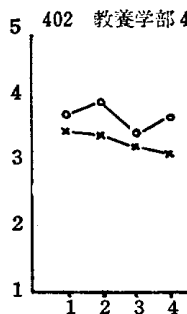
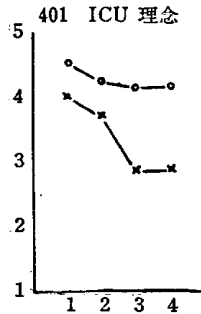


5 311 卒業式

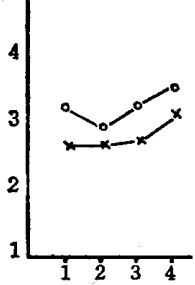


5 312 舞踏会

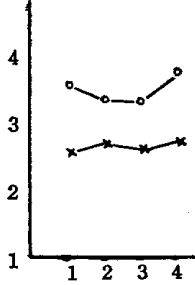




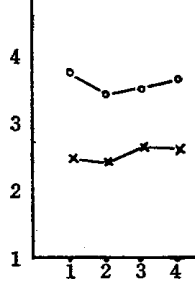
5 602 スポーツ交流



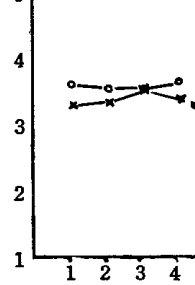
5 603 文化面での交流



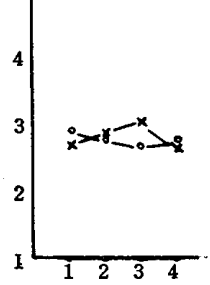
5 604 諸外国との交流



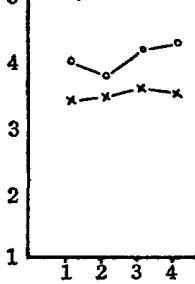
5 605 地理的条件



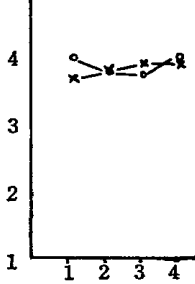
5 606 娯楽施設



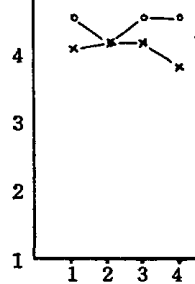
5 701 勉学の間として



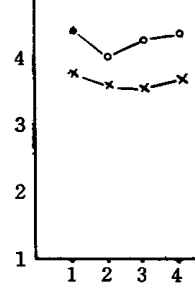
5 702 健康の間



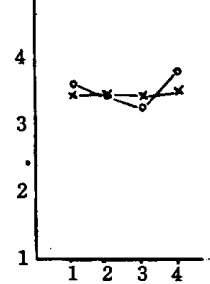
5 703 友人



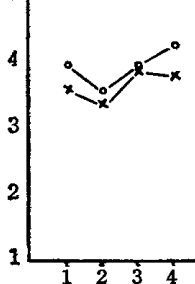
5 704 教師



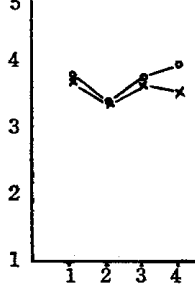
5 705 親・兄弟



5 706 先輩



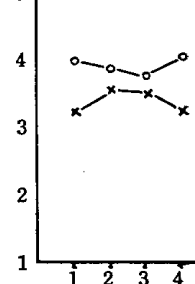
5 707 後輩



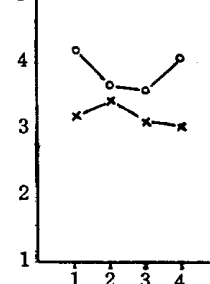
5 708 異性



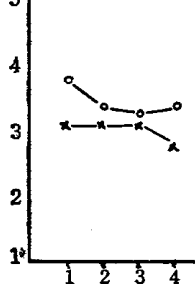
5 709 余暇の利用



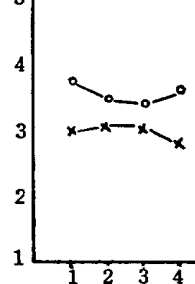
5 710 授業料



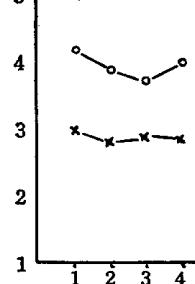
5 711 下宿代



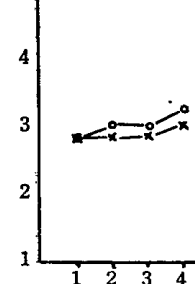
5 712 食費



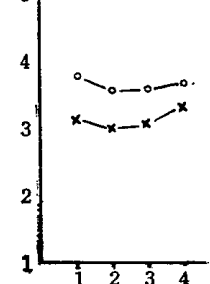
5 713 書籍費



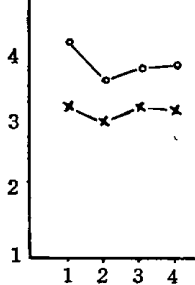
5 714 遊興交際費



5 715 アルバイト



5 716 奨学金



—○— 大切さ  
—×— 満足度

大学に学問研究と、教師友人との人格的ふれ合いを通しての人間形成を求めるのは、決して ICU に限らず、大学教育を受ける者にはひとしくいえることである。したがって、今回の場合にも、一貫してこの2つの側面に強い欲求があらわれるのは当然であろう。

b. どの時代にも大切にないとされている項目

117 三学期制	221 オリエンテーションキャンプ
118 B平均制度	310 マラソン大会
119 クラス出欠に関して基本的ルールのないこと	312 舞踏会
	606 娯楽施設

他の側面に比較してどの時代にも一様に大切さが認められていないのは7項目だけであるが、娯楽関係はさておき、「B平均制度」や「三学期制」に卒業生ですらあまり意義を認めていないということは、大学がこれらの制度を再検討する必要に迫られているのではないだろうか。

2) 大切さが増加する傾向のある項目

512 売店 etc.	701 勉学の間としての ICU
602 スポーツ交流	706 先輩

これに相当する項目がわずか4項目のみであるということは、初期のグループの大切さの度合いが全体的に高い傾向にあることが一つの原因であると思われる。

3) 大切さが減少する傾向にある項目

003 大学行事への参加	114 教職課程
005 ICU の国際性	115 専門職への準備
006 ICU の基督教主義	116 日英用語の重視
103 社会科学科一般教育	120 教養学部一学部制
110 価値観研究	123 外国人の受け入れ体制
111 話法	201 大学の広報活動

202 同窓会活動	306 友達プログラム
203 宗教活動	307 ICU 祭
204 コンボケーション	308 クリスマス行事
205 カウンセリング・学生相談	311 卒業式
209 オリエンテーション	405 全寮制
218 宗教関係奉仕グループ	406 寮アドバイザー制度
220 入学式	407 寮母制度
222 IBS 制度	408 ICU ファミリー
301 寮祭	501 食堂
302 宗教強調週間	502 クリニック
303 構内清掃日	508 大学礼拝
304 修養会	713 書籍費
305 夏期キャンプ	716 奨学金

大切さが時代とともに減少する傾向にあるものは、全項目数の約 1/3 にあたる38項目である。このように多くの項目について大切さが減少しているということは、ICU の抱く問題点に何らかの関連を持つのではないかと思われる。しかもこの大切さ減少の項目の内容は、主に ICU が持つ独自の教育活動の側面であることが特徴的である。質問紙の全項目のうち、45項目が他の大学にはみられない ICU 独自の教育活動をあらわしているものと判断されるが、その内30の項目が、この大切さ減少の傾向に分類されるものである。宗教活動を含む ICU 独特の行事や制度、特色に対する価値が、時代とともに学生の意識の中で薄れていくという傾向は、どう解釈すべきであろうか。

一般に、ある対象に価値を認めないということには2通りの場合が考えられよう。第一は、この対象についてよく理解した上で、その価値を軽く評価し、大切さを認めない場合であり、第二は、対象についての理解がないために評価の基準とすべきものを持たず、よって価値を認めることができない場合である。そして、上に指摘された現象は、この後者の場合にあてはまらないだろうか。もし、学生が建学の精神や大学の理念にてらして、ICU の社

会における意義と役割を自覚し、独自の大学であることを認識している場合は、それにともなって、ICU の持つ特殊な教育体制の意味を理解し、価値を感じ且つその共同体の一員としての誇りと喜びを持つことができると考えられる。

ところが、時代の流れとともに ICU をとりまく社会の情勢が変化し、ために ICU に対する社会の期待、すなわちその役割の特殊性があいまいになってきた。更に、入学する学生の ICU 選択の動機が、必ずしも初期にみられたところの純粹に建学の精神に基づく ICU の特殊性ではなくなってきた。むしろ巷間に伝えられる卒業生の就職率のよさと、その観点からの社会的名声や、また他校とは一風変わった入学試験方式をとっているなどの理由から ICU を志願する者が増加したと見る説も、一概に否定することはできないであろう。これらの理由から、初期の学生と比較して、後期の学生は ICU の建学の精神、ICU の理念についての理解が不十分となり、従って又、理解が不十分であるがゆえに、これらに基づく ICU 独自の教育活動についての評価が低下してきたものではないかと考えられる。

さすれば、このような ICU 建学の精神や ICU の理念の理解が不十分な学生に対しては、変動する社会における ICU の担う役割と目標を常に明らかにし、それらに密着した独特の教育体制の意味を自覚させていかなければならない。さもなければ ICU 独自の教育活動は学生から価値を認められず、ひいては彼等が ICU を他の大学と何ら変るところのない一大学として把握する傾向を助長させるのみではないだろうか。

#### 4) その他の変化をみせる項目

102 自然科学一般教育

208 経済援助制度

105 体育理論

601 他大学との学問的交流

106 体育実技

710 授業料

上記の項目では、第2グループ及び第3グループで大切さが一たん減少し、第4グループで再び増加する傾向がみられた。

## 2. 満足度

### 1) 満足度が不変の傾向にある項目

#### a. どの時代にも比較的満足度が高い項目

この分類に含まれる項目は卒業生全体の傾向のところであげられたものど  
だいたい一致している。(前節B2 a参照)「自然環境」と「図書館の利用法」  
について満足度が高いのは、ICU の環境と開架式図書館という客観的事実  
と一致している。

もう一つの傾向として、主に大学における人間的接触に関する側面がとら  
えられていることは興味深い。友人や教師、あるいは先輩後輩との人間的な  
ふれ合いに、いつの時代にも共通して卒業生が満足を感じているというこ  
とは、ICU の小人数制が informal な場面での人間的接触を可能にしたとい  
う意味で教育成果を挙げているといえよう。

#### b. どの時代にも満足度が低い項目

115 専門職への準備	601 学問的分野における他大学と の交流
409 学生の社会的関心	603 文化面における他大学との交 流
506 グラウンド	604 諸外国との交流
507 体育機具・施設	

どの時代においても共通して不満が感じられている項目は、すべて ICU  
と外部との関係を示すものに集中されているのが特徴的である。卒業生は  
ICU が外部に対し案外閉鎖的であったと評価しているといえよう。

### 2) 満足度増加の傾向にある項目

102 自然科学科一般教育	212 スポーツクラブ
119 クラスの出欠に関して基本的 ルールのないこと	310 マラソン大会
206 就職指導	503 語学教育設備
	503 実験設備



512 売店 etc.

706 先輩

602 スポーツ交流

満足度が時代とともに増加している項目は10項目で、全体の8%にすぎない。大学の設備施設などは相当整備されてきたと考えられるが、しかし、わずかに語学教育設備と実験設備が増加の傾向にあるとされ、客観的事実と一致している。また課外のスポーツ関係が増加しているのも学生数の増加に伴い活動が盛んになったためであろう。

### 3) 満足度減少の傾向にある項目

002 人格形成の場としての ICU

301 寮祭

003 大学行事への参加

302 宗教調週間

006 ICU の基督教主義

303 構内清掃日

105 体育理論

304 修養会

108 基礎科目

307 ICU 祭

110 価値観研究

308 クリスマス行事

111 話法

311 卒業式

121 コース新設についての学生側の意見の反映

401 ICU の理念

403 学生の構成内容

123 外国人の受け入れ体制

406 寮アドバイザー制度

126 教授の教授方法

408 ICU ファミリー

128 教授の社会的活動

410 大学の経営方針

204 コンボケーション

411 教授会の運営, あり方

210 学生の自活組織・活動

501 食堂

219 SFC

502 クリニック

220 入学式

全項目の24%にあたるこれら30項目について、満足度減少の傾向がみられるということは、大切さ減少の項目が多いこととならんで、ICU の持つ問題点を大きくクローズアップしている。すなわち、ここでは大半が大学当局



ルールがないこと

312 舞踏会

404 1年生のセクション制度

このうちで比較的大切さが高く、満足度も高い項目は「自然環境」と「1年生のセクション制度」であり、他の項目は大切さも満足度も低いものである。

b. 大切さ増加，満足度増加：



512 売店 etc.

706 先輩

602 スポーツ交流

c. 大切さ減少，満足度減少：



003 大学行事への参加

301 寮祭

005 ICU の国際性

302 宗教強調週間

006 ICU の基督教主義

307 ICU 祭

103 社会科学科一般教育

308 クリスマス行事

105 体育理論

311 卒業式

123 外国人の受け入れ体制

406 寮アドバイザー制度

204 コンボケーション

408 ICU ファミリー

218 宗教関係グループ

501 食堂

219 SFC

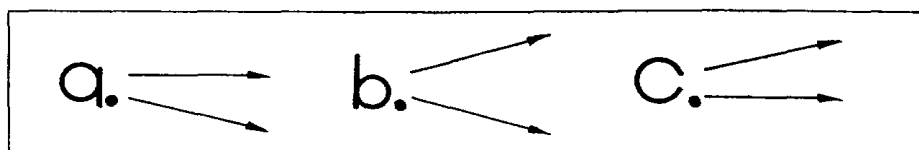
502 クリニック

220 入学式

大切さと満足度の双方が時代とともに減少する傾向が、かなりの項目、それも上に挙げられたような ICU 独自の教育活動に関する項目にみられる。

2) 欲求不満度が増加する傾向にある項目

大切さと満足度の組み合わせパターンからは、



の3通りが考えられるが、主に a のパターンに含まれる項目が多く、また c

のパターンに含まれる項目はないので、aとbをまとめて扱う。これに該当する項目は次の通りである。

001 文化的環境	217 思想科学系クラブ
121 コース新設に対する学生の意見の反映	401 ICU の理念
210 学生の自治	410 大学の経営方針
215 教授陣容	411 教授会の運営，あり方

この内「文化的環境」と「思想科学系クラブ」がbのパターン，すなわち大切さ増加，満足度減少に含まれる。

「ICU の理念」は，いつの時代にも非常に大切であるとみなされている。それにもかかわらず満足度が大きな変化をみせて減少している。このことは，とりもなおさず ICU が掲げた「神と人にとり奉仕する人間の育成」という理念を達成させる具体的な方法が，初期においては学生に満足を与えていたが，時代の変遷にしたがってその効力を失ってきたことを意味しているといえよう。

その他の項目は，主に大学の運営に対する学生の参加を示す側面であり，この側面において時代とともに葛藤が大きくなってきていることを示している。この傾向の意味するところについては，後に他の傾向と総合的に考察する。

### 3) 欲求不満度減少の傾向にある項目

a. 大切さ不変，満足度増加：



503 語学教育設備

606 娯楽施設

b. 大切さ減少，満足度増加：



113 第2外国語

206 就職指導

c. 大切さ減少，満足度不変：



115 専門職への準備

120 教養学部一学部制

116 日米用語の重視

201 大学の広報活動

202 同窓会	305 夏期キャンプ
209 オリエンテーション	306 友達プログラム
222 IBS	309 スキーキャンプ
303 構内清掃日	407 寮母制度
304 修養会	

大切さと満足度のずれが時代とともに減少していく傾向にある項目においては、満足度が増加することによって欲求が充足されていくのではなく、主に欲求水準が下ることによって満足度との差が縮小していく傾向、すなわちCの型が多くみられる。

#### 4) 分類不可能の項目

106 体育実技	405 全寮制
110 価値観研究	505 実験設備
111 話法	710 授業料

#### 4. 項目再分類の試み

以上の大切さ、満足度、不満度について分析した結果から、内容的に共通な側面を持ち、しかも類似の変遷パターンを示す項目によって再分類を試みると、次の様な5つの側面にわけられる。

##### 1) 学問研究に関する側面

いわゆる大学におけるアカデミックな研究活動に関する項目は、どの時代でも非常に大切であるとされ、しかも満足度とのずれが大きい。

001 学問研究の場としての ICU	124 講義内容
008 学問水準	125 教授陣容
107 専門コース	126 教授方法
109 選択科目	127 教授の研究心
112 卒論	

## 2) 大学における人間的接触に関する側面

学生生活における人間関係に関する項目は、どの時代も共通して比較的満足な状態にある。

130 教授の人格・人柄	704 同 - 教師
404 1年生のセクション制度	706 同 - 先輩
703 大学における人間的接触—友 人	707 同 - 後輩 708 同 - 異性

## 3) 学外との交流に関する側面

スポーツを除いた外部との関係に関する項目は、どの時代にも比較的不満足な状態にある。

409 学生の社会的関心	603 文化面における他大学との交 流
601 学問的分野における他大学と の交流	604 諸外国との交流

## 4) 大学の運営に対する学生の参加に関する側面

制度としての大学の運営に関する項目は、どの時代にも大切であるとされているが、時代とともに不満が増大する傾向にある。

121 コース新設についての学生側 の意見の反映	410 大学の経営方針 411 教授会の運営, あり方
210 学生の自治組織活動	

## 5) ICU 独自の教育活動に関する側面

他大学にはみられない ICU 独特の行事, 制度, 特色などに関する項目は、時代とともに大切さが減少する傾向にある。

005 ICU の国際性	116 日米用語重視
006 ICU の基督教主義	120 教養学部—学部制

203 宗教活動	307 ICU 祭
204 コンボケーション	405 全寮制
218 宗教関係奉仕グループ	408 ICU ファミリー
222 IBS 制度	

## 5. 結 語

本調査研究は、大学の教育活動を総合的に評価するための一つの試みとして、卒業生による学生生活の評価を、大切さと満足度、ならびにその差（不満度）の各観点から考察したものである。

その結果、まず第一に、現在一般に大学の教育目的の重要な側面と考えられている学問研究に関しては、ICUの卒業生は創立当初以来、いつの時代においてもこれを非常に重要視しており、その反面、ICUにおける学問研究については常に充たされておらず、したがって欲求不満な状態にあった。これに対して、やはり大学の教育目的の重要な側面であると考えられている人格形成については、創立当初より現在に至るまで、ICUの学生は比較的満足と感じていた。但し、この満足感は時代とともに減少する傾向にある。

又、創立当初の学生は、ICUの建学の精神、ICUの理念等にもとづくICU独自の教育活動にも価値を認めていた。しかし、時代の変遷とともに、ICU独自の教育活動は、今日、その意義が認められなくなっている。すなわち創立当初の学生はICUの理念に意義を感じ、ICUと自分自身をその理念達成の具体的な媒介として、言い換えれば実践の場とそこでの主体としてとらえていた。ところが時代の変遷にともないICUの理念をあらわす「国際性、基督教主義」などに対する価値が減少し、またその他のICU独自の教育活動の意義も見失われてきた。したがって、後期の学生たちに意義が感じられているものは、ただ学問的研究と人間的接触のみである。しかし学生である以上、これらに対して意義を認めるのは当然のことであり、決してICUに特有の現象ということとはできない。そこで、結局現在のICUのイメージは、学生の意識の上では他の大学と大差がなくなっているのでは

ないかと思われる。

前節でも触れたように、最近の学生によって大切さが認められており、かつ満足な状態にあると認められているものは、ICUにおける人間的接触の側面である。更に、学問研究ならびに大学の運営に対する学生の参加に関して、学生が非常に大切であると感じているにもかかわらず、これらに対する不満が時代とともに増大しており、したがってこの二側面に対する学生の欲求不満が生じている傾向に注目すべきである。後者に学生の欲求不満が増大しているということは、結局大学生活における学生の種々の不満が、教授会、大学の経営方針等に反映されず、また学生の自治組織にも限界があることからきているものと思われる。いずれにせよ、大学当局はこのような学生の不満を何らかの方法で把握し、これらに対する適切な措置を講じない限り、学生の欲求不満はますます増大し、その結果この欲求不満を解消するために、学生に逃避的行動や攻撃的行動を起こさせることになるであろう。

それでは現在、ICUは他の大学と全く異るところのない大学として学生にうけとられているのだろうか。現段階では、「ICUの理念」が非常に大切であると思われてきていることから、少なくとも卒業生はICUの特殊性に全く無関心ではない。むしろこの点を深く意識していることが明らかである。しかし、ICUの理念を具体的にとらえているはずのICU独自の教育方法に対して、学生が大切さを感じていないと云うことは、結局大学当局が、学生にICUの特殊生を伝え実現する方法において、期待通りの成果をあげていないことを意味するのではないだろうか。

その原因としてまず第一に考えられることは、大学当局自身の内部において、ICU建学の精神や理念を継承していくことが効果的に行なわれなかったのではないかという疑問である。

第二は、時代の要求に応じて大学の社会的な役割も変化していくはずであり、大学当局が絶えず大学の理念にてらしながら、ICUのもつ社会的意義とその期待を敏感に把握し、日常の大学教育の中に具体的教育目標をたてることをおろそかにはしなかったかと言うことである。仮にも大学当局自身が



建学の精神と伝統の維持や、大学の理念の時代性に密着した意味の把握に成功しなかった場合は、当然のことながら、学生に対して ICU の特殊性を伝えようにも具体性に欠け、ひいては教育目標を見失う結果となってしまいうであらう。

第三は、もし大学当局が上記の危険性を充分認識し、絶えず反省し努力していたとしても、それを学生に伝え、大学教育に実現する方法において欠陥がなかったであろうか。たとえば、従来のままの制度や方法を、その効果を測定評価することもなく、ただ昔のまま踏襲してきたため、実際には効力が減少しているにもかかわらず、その事実を大学当局が認識できず、従ってその政策にも反映されることがなかったということが考えられる。大学当局は大学共同体としての ICU 構成員全員に、その基本理念を明確に伝達し、その独自性を保つことによって、社会に ICU 存在の意義を問うとするならば、まず内部における伝達の方法の効果をつねに測定・評価し、その結果を検討して、適切な教育方法を対応せしめていくことこそ最も肝要である。そのためには、本学において、従来行なわれることのなかった全学的な教育調査と自己評価を、多面的かつ継続的に行なっていくことが必須であると言えよう。

1. 原 一雄・渡辺幸一 “大学教育の総合評価 その1 大学における学校評価と国際基督教大学のための試案” 「教育研究」第14号 1969。
2. 岩瀬 純一・中山 和彦・原 一雄 “大学教育の総合評価 その2 ICU 在学生による学生生活の評価” 「教育研究」第14号 1969。
3. 岩瀬 純一 「大学生の学生生活に対する態度に関する一研究」国際基督教大学 卒論 1968。
4. 久留 悠子 「学生生活の態度に関する評価の一研究：教職員と学生との比較研究」国際基督教大学 卒論 1969。
5. 土屋 静子 「大学教育の教育評価に関する一考察」国際基督教大学 修論 1969。

教育研究 14号 誤植

頁	行	正	誤
123	5	教育の近代化が	教育の近代化は
126	13	学校全体の質とか	学校全体の値とか
127	6	人的・物的要素	人間・物的要素
134	3	全学共通の語学と	全学共通の諸学と
135	18	きめの細かい	目の細かい
136	2	この中には	この内には
137	3	13.	11.
"	6	14.	12.
"	8	15.	13.
"	10	(誤まって挿入されたのでのぞく)	14. Bale, M.……
"	12	( " )	15. Bale, M.……
"	14	( " )	16. Bale, M.……
"	15	( " )	17. Bale, M.……
"	18	16.	18.
"	19	17.	19.
"	文献追加	11. 相川高雄 “教育計画立案に必要な諸調査” 「教育心理」 17巻 1月号 1969。 12. 岡田朋子 「ICU 入学選抜制度に関する教育心理学的考 察」 国際基督教大学学士論文 1964。	

## COMPREHENSIVE EVALUATION IN HIGHER EDUCATION

### III. Alumni's Evaluation of Their Student Life at ICU

Shizuko Tuchiya, Kazuo Hara

#### **Purpose :**

Despite of a high reputation that ICU has received from pedagogical circles because of its unique educational activities carried out under its unique educational aims, it became apparent through frequent campus disputes that it had various problems of its own.

This study was undertaken to measure the problems objectively through a wide assessment of its university life from the point of view of the alumni, thereby trying to provide an assistance in planning the future educational programs for their alma mater. Hence, the objectives of this study were as follows :

1. To study the evaluation of the university life by the alumni from 3 aspects : the degrees of importance, satisfaction and discrepancy (unfulfilment).
2. To study the trends of their evaluation of the university life from the same three aspects.

#### **Method :**

A questionnaire titled "A survey of attitudes toward student's life", prepared by Iwase and Kuru (3, 4), was employed. It contains 121 items in 8 areas, covering various aspects of the university life. The responses to all items were obtained from two aspects: how important they were and how satisfactory they were. Consequently, the gap between the two assessments was considered as a degree of unfulfilment or frustration.

Total of 133 responses were collected from the alumni. They were then divided into 4 groups according to their years of entrance to ICU. (Table 1)

Results :

Evaluation of the university life by the alumni tends to regard all spectra of the university life important, but they are generally unsatisfactory for them at the same time. Hence, a discrepancy between the two generates a considerable degree of frustration in their campus life.

Trends of the evaluation revealed from the 3 aspects are as follows :

A. Importance.

1. The aspects of the university life considered important at all times are those concerned with either academic activities and human relations on the campus.
2. Items which tend to increase their importance as the time passes are very few. On the other hand, approximately 1/3 of the total items decrease their importance as the time passes, and the peculiar feature of these items is that they are mainly those items which belonged to the category of educational activities unique to ICU.

B. Satisfaction.

1. Those items concerned with human relations seem to be fairly satisfactory throughout. Low degrees of satisfaction are found in the aspect of exchange programs with the outside of the campus.
2. Very few items increase the degree of satisfaction as the time passes, whereas approximately 1/4 of the total tends to decline and the items are concentrated in either students' participation of administration and management or ICU's unique educational activities.

C. Unfulfilment.

1. Relatively greater degrees of frustration are found in the academic activities and the exchange programs with the outside.

2. The degree of frustration tends to increase on the aspect of students' participation in administration and management.

**Discussion and conclusion :**

Basing upon the above results, it is possible to trace how the "image of ICU" conceived by the alumni and the students has changed. Those alumni belonged to the Group 1, who entered ICU in the early days of its foundation, not only felt the "ideals of ICU" important, but also saw ICU as a field to attain and accomplish those goals. Namely, they placed a great significance on "I of ICU" and "C of ICU". Along with the significance of academic affairs and human relations, they placed values heavily on the various educational activities unique to ICU.

However, as the time passed, latter students tended to concern only with academic affairs and human relations and disregarded the unique characteristics of the university. Therefore, there is little distinction and differentiation of ICU from any other university.

On the other hand, it is clear that the same students never felt that ICU should be the same with other university. They upheld the "ideals of ICU." This forces us to conclude that the unique educational activities, which are meant to convey the "ideals of ICU" to the students, failed to bear its fruit. Among other things, it may be due to the fact that the faculty and the administration have blindly followed the old manners without measuring and evaluating their effects objectively. If ICU were to retain its uniqueness in this changing society, it is necessary to assess the effectiveness of the means to convey its uniqueness, and to take appropriate measures in accordance with the results thus obtained. In order to do so, it is absolutely and urgently necessary to undertake educational evaluation of its university affairs on all-comprehensive basis.